

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域ぐるみで高齢者の生活を支え、その人らしく暮らせ、地域生活との継続を支える理念を作っている		
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	所内での新任職員研修で必ず理念を伝え理解してもらうようにしている ミーティング時、日常活動の中に理念が活かされるよう確認合っている		
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月通信を発行し様子を伝え、また運営推進会議等の機会に地域の方々との意見交換等をする中で理解してもらっている		
理念と共有 3項目中 3項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input checked="" type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎朝の散歩や買い物にでかける時等、近所の人たちと挨拶したり声かけにより、利用者の行動を見守って下さっている また家で作られた野菜や花等を持って来て下さったり、ホームでできた果物をお返ししたりしている		
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会費を支払い、ゴミ当番や例祭・納涼祭・地域の運動会・文化祭・サロンに参加したり、近くの保育所小学校との交流を行っている		
6		<input checked="" type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	子育て支援事業つどいの広場で地域の高齢者・子供達と交流している 家族や地域住民を対象に認知症を理解してもらうための研修を行っている		
地域とのつきあい 3項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的をミーティングで話し合い評価を実施し、評価でできた課題について改善計画や具体策についての検討や実践につなげている		
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で認知症の理解を推進会議のメンバーだけでなく、地域に広げ理解を深める必要があるとの意見を反映するための取り組みとして、区の高齢者の人権のまちづくりに認知症を理解するための研修・地区別のグループワークを実現した結果を家族会に報告し、運営推進会議の意見が活かされていることを確認してもらっている		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に小規模事業所としての運営上の問題の相談に乗っていただいたり、必要な情報をもらったり、助言をいただける関係作りをしており協議していただける働きかけをしている		
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に外部研修に参加してもらい、ミーティングで伝達研修をしてもらい制度についての理解を深めている。また、現在利用している利用者を支援している(地域福祉権利擁護事業)市の人権教育課や協議会の方々が研修に来られている		
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時、研修参加者の伝達研修を受けながら、高齢者虐待防止に関する理解や日常のケアの中でも人としての尊重を守っていく取り組みが行えるよう確認し合っている		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
		I-4. 理念を実践するための体制			
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をとって事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料や重度化や看取りについての対応、医療連携体制について説明している 利用料の増額等については積算根拠を示し説明し、納得を得ている		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員に月1回入ってもらい、利用者の相談に乗ってもらっている。その内容を事業所に知らせてもらい、ミーティングで話し合い、利用者本位のケアを心がけている		
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に通信を発行し、利用者の状況・預かっているお金の金銭出納帳を毎月にご家族に報告している 家族の来所時にもケース記録を見てもらったり、個人の状況を報告している 必要に応じて家族に個別に連絡している 家族会開催についても家族会で開催回数内容等を決めるよう働きかけている		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見が出やすいよう苦情窓口(県・市の窓口・第三者委員)を紹介したり、ご意見箱を置いたりしている 来所時に話された意見等の内容はミーティングで話し合い反映させている		
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティング、3か月に1回の面接を行い考え方や意見を聞き反映させている 個別に出た意見や提案を実践できるよう配慮している		
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の暮らしを支えられるよう起床時の更衣・排泄の介助に手がかけられるよう職員を配置している またその都度必要に応じて柔軟に職員の配置をしている		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代がある場合は引き継ぎの期間を充分設け、サービスの質を保ちダメージの軽減を図っている		
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人毎に段階に応じて事業所内外の研修に計画的に参加してもらい、研修復命書を作成し、他スタッフに回覧で読んでもらったり、ミーティング時伝達してもらっている	○	職員がまんべんなく研修に参加できるようにする
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会・湖南省介護保険事業所協議会の研修に参加してもらいサービスの質の向上に励んでいる また甲賀圏域グループホーム交流会に参加し、意見の交換や交流により自施設のケアに活かしている(管理者・職員とも)		
21		<input type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常活動のコミュニケーションをとる中で、また個別面接のより悩みを聞かせてもらい、できる限りの対応をしている 職員同士の人間関係を把握するよう努めている	○	疲労やストレスにならないよう休憩時間をとったり、気分転換できる機会を作っている。職員の年齢、また個別の感受性によってもストレスの感じ方・人間関係のとり方に差があることを把握し、配慮するようストレス軽減に努めていきたい
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の段階別に上位の資格取得に向けての情報の提供や勤務の調整を行う等で資格取得の支援を行っている		
人材の育成と支援 4項目中 4項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からサービスの利用について相談があった時は、必ずご本人に会い心身の状態や本人の気持ちを聞かせてもらい、思いを受け止め、職員とご本人の関係作りに努めている		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っていること・家族が求めていることを理解し、ゆっくり聞かせてもらい、相談にのり事業所として対応できることはさせてもらっている	○	家族の困っていることや不安に思っていることとご本人の食い違いを把握しているが、対応について理解してもらうことが不十分に思われることので、本人・家族と話し合い、事業所としてできる努力したい
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い・状況を確認し、その時点で必要なサービス利用について説明し、必要なサービスにつなげたり提案している		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、本人が利用しようという気持ちになられるよう数回来所してもらい、ホームに慣れてもらい、納得して利用できるよう支援している		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
<b>II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有して持っており、利用者が今までに培ってきた知識・技術を教えてもらったり、学ばせてもらったり、支え合う関係を大切にしている		
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え、本人を支えていくための連絡を取り合う中で、おおむね協力関係が作られている	○	少ないが、本人のことを連絡されたくない家族もおられ、本人を支えるための協力関係を作る工夫の試みをする努力をしていきたい
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす時間を持っていただけよう働きかけよい関係が保たれるよう努めている		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	地域で暮らす馴染みの知人・友人に会 え、今まで続けていた趣味活動が継続で き、定期的な交流ができるよう地域の 人達の協力を得ながら支援している		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	ミーティング時、利用者同士の関係について職員 が情報を共有して、散歩や共同作業をするときの 組み合わせ等に配慮して、利用者同士の関係がう まくいくよう職員が調整役となって支援している		
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自宅へ帰られサービス利用が終了された方についても自 宅を訪問し、本人や家族の困っていること、不安に思っ ていることの相談にのったり、利用している他サービス事 業所の方や在宅の介護支援専門員と連絡を取り合う等の フォローをしている		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>Ⅲ-1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の思いや意向を把握するように努めているが、本人と家族の思い・希望が異なる場合、本人の視点に立って、家族と話し合い検討している	○	本人にとって誰とどのように暮らすことがよいのか話し合う取り組みが必要である
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホーム入所までに本人の生活歴・支えられた人々のこと・大切にされていた物等をシートでわかるところを記入してもらっている 把握できてないところは本人自身に語ってもらい埋めている		
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のシートを活用して、利用者の生活の仕方(リズム)や行動・話される内容等から、1日の過ごし方・心理状態等利用者の状況を総合的に把握している		
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
<b>Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員それぞれがセンター方式のアセスメントを記入することでそれぞれの気付きが計画に反映された計画をカンファレンスを実施し、作成している センター方式のアセスメントシート記入の際には家族の話を聞きながら記入している		
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった時には随時計画を見直している 介護計画は定期的に評価を行い見直している		
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日常生活の状況や利用者の言葉・食事・水分量・排泄服薬の状況・心身状況がわかるよう記録し、情報の共有をしながら、利用者それぞれの性格や特徴・思いを取り入れた介護計画を作成している また勤務開始前の確認を行ってらっている		
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
<b>Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な身体状況の変化による緊急時は家族の連携で救急外来等の受診など柔軟な対応が行えるようにしている 24時間体制で健康管理を行い、利用者の受診や入院の回避に努めている		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人がよりよく生活を楽しみながら、暮らせるよう地域のいろいろなボランティアへ呼びかけ、協力を得ている(レクリエーション・あったかほ一むのイベント参加等)		
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣家のあったかほ一むで開催するイベントに参加し、生活を楽しむ支援をしている 利用者の状況や希望に応じてデイサービス日参加してもらっている		
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の参加を地域包括支援センターの職員にさせていただいており、支援に関する情報交換・協力関係を築いている		
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者ごとに入所前からかかりつけ医があり、家族に同行受診をしてもらっているが、緊急時は家族の同意を得て職員が代行している 受信結果は家族を通して聞かせてもらったり、受診時の情報提供を医師に家族を通して行ったりして家族と共有している		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者が専門医に受診され診断や治療方針を定められている また専門医と地域の認知症相談員が連携されており、職員は困った時や対応方法について疑問を持った時はそれぞれに相談し、適切な指示や助言をもらっている		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている 看護師と協力医療機関とも連携が密にとれる体制がある		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、入院によるダメージを防ぐため本人の日常の状況や特徴・支援方法に関する情報を交換しながら、早期退院できるよう必要な支援を行うようにしている		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する看取りの指針を定め、事業所としてできるケアについて説明を行っている 本人の状態の変化があるごとに本人・家族の思いを聞かせてもらい支援につなげている		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当ホームでできる見守りを主としたケアを希望される場合、本人・家族の意向を踏まえ、主治医・職員が連携をとり、安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる		
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから自宅へ帰られ、他事業所に移られた場合、家族の了解を得て、利用者の状況等のアセスメント・ケアプランや支援状況を手渡すと共に情報交換を行ったり、訪問に行く等によりケアの工夫を伝え、ケアの継続性が保たれるよう努めている		
地域資源との協働 10項目中 10項目					




自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	職員は利用者のありのままを受け入れるようしている またプライバシーに尊重するよう心がけている	○	利用者の尊厳を守り、言葉の選び方・使い方に注意する 相手の意志を尊重し物事をすすめるよう努力していく
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ホーム内は笑いが絶えずあり、利用者が生き生きと生活していると思われる また些細なことも本人が決めるよう支援している		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、何をすることも利用者のペースを尊重するようにしている 一人ひとりの状態や思いに配慮しながら個別性のある支援を行っている	○	施設側、職員側の都合で流れを作らないようにしていく
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好みに応じた服装・髪型・おしゃれ(化粧等)それぞれ利用者ごとに自己決定を尊重している それぞれの希望に合わせて理美容院に行っていたりしている		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や味付けの助言をもらったり、盛り付け・配膳・後片付けを利用者と一緒にして食事を楽しんでいる		
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー・甘い物等、一人ひとりの好みに合わせ嗜好品を楽しめる支援をしている おやつ時、コーヒー・お茶・紅茶を選べるよう声かけしている		
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、さりげなく声かけをしてトイレ誘導でトイレでの排泄を気持ちよくできるよう支援している 排泄の失敗をされても、他利用者に気付かれないようトイレ・居室に誘導し交換している		
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調が良ければ、毎日入浴してもらっている。利用者で話し合い、入浴の順番を曜日ごとで決め、入浴いただいている。着脱や洗身はできるだけ自分でしてもらい、一人で湯船につかる時間を大切に、一人ひとりに合わせた入浴の支援を行っている		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動(家事・散歩・買い物・レクリエーション等)を活発にさせていただくことで、夜しっかり眠っていただく等、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調に合わせて、日中の活動への参加を調整したり、昼寝をしていただいている		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活用し、食事作り・干し柿作り・漬物等調理・掃除・洗濯物干し等役割を持ってもらえるよう働きかけている。「上手にできたわ」「助かったわ」と感謝の気持ちを伝え、自信につながるよう努めている		
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時、利用者本人の物を買われる場合は財布にお金(少額)を持って行ってもらい支払いを自分でしてもらっている		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にほぼ毎日外出し、外の空気を楽しんでもらっている。散歩・買い物・気分転換やストレス発散のため、ドライブや名勝の見学、地域の行事、手作り弁当を持っての外出をしている		
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「はすを見たい」という希望者の声に応えるため、計画を立て職員やボランティアの協力を得て出かけた。また、信楽高原鐵道の旅がやっと実現でき、「こんな奥まで電車で来たことがない」等の喜びの声が聞かれた		
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が望まれば、いつでも電話を管理室または居室で利用してもらっている。家族や友人からの手紙が来たら、返事を書いてもらっている。こちらからも手紙・はがきを出すよう勧めている。必要時は、はがき・切手を購入し、これまでの人間関係が継続できるよう支援している		
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に出入りできる雰囲気作りに心がけている。他利用者に気兼ねなく過ごしてもらえるよう居室で利用者と来所者がくつろげるようお茶・お菓子を出し、ゆっくりしてもらっている		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する弊害を共通認識し、拘束のないケアに努めている		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、利用者が自由に出入りできるようにしている。センサーが働き、音で出入りがわかるようにしている。夜間のみ鍵をかけている		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ室内で記録等の事務作業を行い、全員の状況を把握するよう努めている。7時から21時は職員2人で利用者の様子を把握、夜間は1時間毎に巡視をし、安全を確認している。夜間の休憩は居室が見通せる廊下のソファで休むなど利用者の安全に配慮している		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使う時に注意が必要なものを考慮して保管している		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとり利用者の状態を把握し、予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。ヒヤリハットの記録をし、職員の共有認識を図り再発防止に努めている		
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作り、職員の目の届きやすい場所に置いている。所内での事故発生予防や応急手当についても研修し、対応できる体制としている		
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・砂防・地震等、非常災害訓練計画を作成し、マニュアルを活用して避難訓練を年2回実施している。ホームの近所の方々や職員やボランティアとして出入りしてもらっているので、災害時の協力を得られやすい。自治会や運営推進会議で協力を呼びかけている		
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに予測されるリスクについては家族に対して説明し、危険防止をしながら、利用者にできる限り自由に暮らしていただきたい旨を理解していただき実施している		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの利用者の状況を職員が把握しており、少しでも変化があればバイタル測定を行い、記録を付け、状況により家族に連絡して医療受診につなげている		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の管理シートを活用し、個別に分けて薬を管理し、服薬時本人に手渡し服用できていることを確認している		
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品(ヨーグルト・牛乳等)を食べてもらおうの工夫をしている。散歩・ドライブ・ホーム内での体操等運動を促すよう働きかけている。水分補給量を記録し、不足がないよう努めている		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯みがき・就寝前の口腔ケアの支援を行っている。食事の仕方や表情から口腔内を見せてもらい、異常の有無・歯の状態・義歯のかみ合わせの異常に気を付けるよう努めている		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を毎日チェック・記録して、職員は情報を共有している。一日を通じた食事量・バランス等を保健師が点検している		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成しており、職員全員で予防対策に努めている。利用者家族の同意を得て、職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。ノロウイルス対策としてペーパータオルを10月より使用し、予防に徹している		
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を使用するため、魚・刺身は当日買いに行っている。また、食材は隔日に配達してもらっている。調理器具・台所水回りの清潔・衛生を保つようになっている。まな板・ふきんは毎晩漂白して清潔にしている		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般の住宅と何ら変わらない造りであるので、近隣住民の方もごく普通に回覧板等を持ってきて下さる		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暮らしの中で匂いや音を感じてもらえるようスタッフと共に食事作ってもらっている。五感で季節感を取り入れられる工夫をしている(鍋料理・草餅作り等)		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・リビング・ダイニングと3つの空間の中で利用者が思い思いの場所で過ごしている。廊下にソファや小さなテーブルを置き、仲の良い物同士でくつろげるようにしている		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具類は全て利用者の好みや馴染みの物など使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている。本人が居心地よく過ごせる工夫をしている		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は常に行い、温度調節については本人が好ましいと思う温度・湿度に設定し、配慮をしている。温度計を各居室に置き、チェックしている		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かしてできるだけ自立した生活が送れるよう玄関・廊下トイレ・風呂場に手すりを設置している。個人の能力に応じ、安心安全に過ごせるよう考慮している		
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや部屋にはホームの雰囲気や壊さないような表札を付け混乱を予防している		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りには畑や花壇・物干し場を設置し、利用者が自由に出入りできるようにしている		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない  一人ひとりの思いや願いを把握できている (少しでもかなえてあげられるよう努力している)
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない  ゆっくりゆったり過ごすを基本としている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない  常に他利用者と一緒にいたい人、自分のペースを暮らしたい人があり、利用者の中に職員が入り調整したり、利用者一人ひとりのペースで暮らせるよう配慮している
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない  多くの利用者は支援することで生き生きされている
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない  行きたい所への外出支援はしている(県外の場合は家族の協力がなければならない)
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない  全ての利用者に主治医がおられ、健康に不安がある場合受診していただける(家族が同伴している) 常勤の看護職がいるので健康管理を行っている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない  小規模のホームなので臨機応変に動いている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない  ホームの職員はほぼ全ての家族と信頼関係ができていると思っているが、家族によっては施設とホームの違いを理解しているが、受診や家族との交流を受け入れられない方もおられ、双方の関係が取りにくいこともある
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない  ボランティアの方々が来て下さる 元の住所近くの友達が月2~3回訪ねて下さる 家族は月に1~2回来所して下さい

項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)	
		↓○印欄	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	運営推進会議での提案や検討されたことが即実行に移されている 認知症の理解を地域に広げる必要があるとのことで、妙感寺区で高齢者人権のまちづくりの研修、グループワークをしている 道路を車がスピードを上げて走らないよう危険防止の看板やステッカーを市に働きかけ設置するようにと協力の輪が大きくなっている
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	グループホーム大空の理念にそうよう利用者とのふれあいを大切にいきいきと働けている 利用者に寄り添い、ゆったり働けていると思う
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	利用者同士の触れ合いや馴染みの関係が感じられ、安らぎのある自由な暮らしに近い生活におおむね満足し、楽しんでいると思われる(毎月笑顔や笑いが絶えないので)
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	家族は小規模で見守りのある暮らしをされていることにおおむね満足されていると思われる 頻りに家族も来所され、色々話して下さるので、おおむね満足されていると思う

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者本位のサービス提供、家族の困りごとや悩みに対しても相談に応じながら、利用者の生活を支援している
- ・地域の中で近隣の人々と触れ合いながら、普通の生活ができる体制で散歩・買い物・季節の行動や地域の行事に積極的に参加するなど、地域の中で日常的な交流をしながら暮らせている
- ・子供達が認知症を正しく理解し、地域で暮らす高齢者として敬い、利用者の持っている知恵や技を学んでもらったりふれあいを大切にするために、地域の保育所・小学校との交流を行っている
- ・利用者の散歩時の「きれいな花やな」「この木いいわ」の声が団地内の家の中まで聞こえてきて、花を植えたり、木の剪定をする等、よい相乗効果が出て、団地内の美化運動につながっている
- ・グループホーム運営推進会議で地域ぐるみで認知症の理解を深めるよう提案されたことが、区の人権まちづくり懇談会に取り入れられて、検討したりグループワークをされるなど認知症高齢者支援の発信源となっている
- ・高齢化する地域で、自分らしく暮らせるホームとして必要と地域の方々に思っただき根付けるよう努力していきたい

## 評価結果整理表

個 別 表	□のチェック項目数
<b>I 理念に基づく運営</b>	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	3 項目/3項目
－3. <input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4. <input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5. <input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	3 項目/4項目
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3. <input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4. <input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	
<b>IV－1. その人らしい暮らしの支援</b>	
－1. (1) <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4) <input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
<b>IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>	
－2. (1) <input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2) <input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目



## 総合評価

### I 理念に基づく運営 ( 5項目/5項目)について

理念を実現していくため、管理者・職員間で話し合い具体的に利用者を支えるサービス提供体制作りやグループホーム推進会議に参加して下さる(区長、自治会長、民生委員、ボランティア、家族の代表、市職員等)地域の方々の協力を得て、地域との関わりを深め、地域の一員としてその人らしく暮らし続けることを支え続ける努力をしており、理念に基づく利用者本位の支援に近づきつつある。

### II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 ( 2項目/2項目)について

サービス利用について相談があったときは、本人・家族の思いや状況を受け止め、本人が安心して納得した上でサービスを利用するため家族と共にホームへ見学に来てもらい、ホームの環境や雰囲気や職員や他利用者に馴染めるよう工夫している。職員は本人・家族の思いに寄り添いながらケアする中で、利用者の様子や職員の思いを家族に伝えることにより、利用者を支えていくための協力関係を築けるよう努力している。

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント ( 4項目/4項目)について

本人・家族の希望を大切に、入所前よりのなじみのかかりつけ医に受診してもらい、認知症については専門医を受診されており、治療に必要な方針は医師間連絡されており、かかりつけ医で指示や助言をもらっており、適切な支援がされている。ホームに保健師を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。利用者一人ひとりの生活の状況の把握に努め、利用者本位の暮らし、本人の思いの尊重に努めている。グループホームから在宅・施設に移行される場合、これまでの生活状況・支援の内容・留意点について情報提供し、利用者にとってベストになるよう家族に相談し、生活が継続されるよう連携をしている。

### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ( 7項目/7項目)について

基本的な一日の過ごし方はあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、何をするにも利用者のペースを尊重し利用者の思いに添った個別性のある支援を行っている。利用者の生活歴を活用し、食事作り・高い所の掃除・干し柿作り・しめ縄作り等利用者の持っている知恵や技術を発揮する場面を作り、役割をはたしながら楽しめるようにしている。利用者と相談しながら、信楽高原鐵道を利用しての日帰り旅行の中でタヌキの絵付けも行った。

### V サービスの成果に関する項目について

地域の中で近隣の方々とのふれあいや地域の行事に参加することで日常的な交流をしながら暮らせる関係作りができてきている(納涼祭・文化祭・運動会・サロンに参加が定例化)。区の人権まちづくり懇談会に「認知症の理解について」の講話や話し合いが持たれるなど地域ぐるみの活動の輪が広がりにつつある。利用者の毎日の散歩が地域の方々にとってもよい反応として出ており、相乗効果となり団地の美化運動の一役はたしている様子で地域にとけ込んだ生活が送れている。グループホーム運営推進会議で提案された利用者の歩行時の安全について自治会長・区長・地域の方々も心配され、安全確保のために市に申し入れをして下さり、交通安全・高齢者の事故防止と書かれたのぼり旗や看板の設置がされている等、地域との連携も深まりつつある。高齢化する地域で自分らしく暮らせるホームとして必要と地域の方々に思っただき、ホームが地域に根付けるよう努力していきたい。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

評価年月日：平成20年 11月 20日

前回評価年月日：平成19年 11月 20日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目番号	優先順位	内容				
自己50 外部20 IV-1. (1)	1	高齢者の人権の尊重 ・利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい生活の継続を支援する ・利用者の自己決定や希望の表出への支援	平成20年12月～平成21年11月	外部研修 内部研修 利用者の尊重を守る言葉かけ接し方に留意し、その人らしい暮らし方や自己決定を支援する	・高齢者の自己決定の支援 ・プライバシーに配慮し、高齢者の自信の回復への支援	平成21年11月
自己52 外部21 IV-1. (1)	2	認知症の方のその人らしい暮らしの支援 ・利用者の心身状態を把握し、一人ひとりに合った関わりを行い、対応する		認知症研修 外部研修 内部研修 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向や希望にそよう支援する	利用者個々の思いを尊重し、一人ひとりに合った個別の関わりができる	
自己24 II-1.	3	初期に築く家族との信頼関係の確立 ・相談から利用に至るまでに家族が困っていること、求めていることをしっかり聴き受け止める努力をする		本人と家族との思いの違いを把握し、理解することで信頼関係を作る	家族が困っていることや不安なことと本人の意志を区分して把握し、段階的に対応ができる	
自己21 I-5.	4	職員のストレス軽減の環境作り、組織的・継続的にストレスをためないよう工夫を行う		定期的な面接 他グループホームとの交流 日常的な声かけ 親睦での気分転換を図る機会	日常活動や面接時に職員のストレスや悩みを把握し、職員同士の間人関係を知り、ストレスの軽減ができる	